



令和元年度(第74回)文化庁芸術祭主催公演
新国立劇場 2019/2020 シーズンオペラ 開幕公演

ピョートル・チャイコフスキー

エウゲニ・オネーギン

Eugene Onegin

<新制作>

2019年10月1日(火)~10月12日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2019年6月23日(日)前売開始

大野和士芸術監督第2シーズン開幕はロシア・オペラ。 ロシア・オペラ旬のスペシャリストが集結

2019/2020 シーズンはロシア・オペラの代表作『エウゲニ・オネーギン』で開幕します。

レパートリーの拡充を大きな柱に据える大野和士芸術監督が、オペラの中で特に重視している分野のひとつがロシア・オペラです。ロシア・オペラを新国立劇場のレパートリーに充実させる第一歩として、チャイコフスキーの甘美な恋愛物語『エウゲニ・オネーギン』を新制作上演します。美しくロマンティックな音楽が恋のすれ違いの物語を描き、チャイコフスキーならではの叙情性が存分に味わえ、オペラファンならずとも心を動かされる傑作です。「手紙の歌」や「青春は遠く過ぎ去り」、華麗なポロネーズなどは単独で上演されることも多い人気曲です。

演出に招くベルトマンは、モスクワの歌劇場ヘリコン・オペラの創設者・芸術監督で、オペラに新風を吹き込み、ヘリコン・オペラをモスクワの主要劇場のひとつに育て上げた敏腕演出家です。今回の新制作では、ロシア現代演劇の祖として世界的に名高い演出家スタニスラフスキーが1922年、“オネーギン・ホール”のこけら落としに『エウゲニ・オネーギン』を上演した際の演出をモチーフとしながら、現代の視点から演出します。

ポーランド歌劇場音楽監督を経てモルドバ国立オペラ・バレエ首席指揮者を務め、欧州各地で活躍しているユルケヴィチ、世界で当たり役オネーギンを披露しているラデューク、17年のザルツブルク音楽祭でセンセーショナルな成功を収めたムラーヴェワら、ロシア・オペラの旬のスペシャリストが集まります。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

大野和士芸術監督第2シーズンはロシア・オペラで開幕。

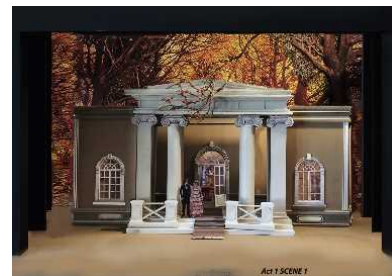
レパートリーの拡充を大きな柱に据える大野和士芸術監督、2シーズン目となる2019/2020シーズンは、ロシア・オペラから『エウゲニ・オネーギン』、ベルカント・オペラでは『ドン・パスクワレ』、そして新たにスタートするバロック・オペラ・シリーズ第1弾『ジュリオ・チェザレ』、そして「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇄Tokyo⇄World 第2弾『ニュルンベルクのマイスタージンガー』」を新制作します。

大野芸術監督がオペラ史において重視しているのが、ロシア・オペラの位置です。『エウゲニ・オネーギン』はロシア・オペラの中でも最も上演頻度の高いポピュラーな作品であり、華麗な管弦楽やバレエ音楽でおなじみのチャイコフスキーの叙情性が十分に味わえる傑作です。原作は帝政ロシア貴族社会の男女の行き違いを描いた、プーシキン の格調高い韻文小説。ニヒルな知識人オネーギン、夢見がちな少女タチヤーナらの若者たちが愛と絶望、死に直面する物語が、チャイコフスキーならではの甘美な音楽で綴られ、誰しも胸打たれます。

19世紀末から20世紀、西洋音楽史の中で大きな花を咲かせたロシア音楽ですが、ロシア革命後の社会的背景から西側諸国ではなかなか紹介されなかった歴史があります。1990年代以後、20世紀ロシア・オペラも世界各地で上演されるようになり、今日では世界の歌劇場のレパートリーの中で無視できない位置を占めています。このロシア・オペラという分野を新国立劇場のレパートリーに充実させる第一歩として選ばれたのが、日本でもおなじみのチャイコフスキーのオペラ代表作『エウゲニ・オネーギン』。ここから始まる新国立劇場のロシア・オペラの展開にご期待ください。

ロシア・オペラのスペシャリストが集結。

演出に招くベルトマンは、モスクワの歌劇場ヘリコン・オペラの創設者・芸術監督。ロシア・オペラをはじめ古典作品から現代オペラまで次々と上演、オペラに新風を吹き込む演出で人気を博し、ヘリコン・オペラをモスクワを代表する劇場に育て上げた敏腕演出家です。今回の新制作では、ロシア現代演劇の祖として世界的に名高く、リアリズム演劇のメソッド“スタニスラフスキー・システム”で知られる演出家コンスタンチン・スタニスラフスキーが、自らの住居を改装した“オネーギン・ホール”のこけら落としとして1922年に『エウゲニ・オネーギン』を上演した際の演出をモチーフとして、現代の視点から演出します。



セットプランより

指揮にはポーランド国立歌劇場元音楽監督で、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場など欧州各地で活躍しているユルケヴィチを迎え、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、ボリショイ劇場など世界の主要劇場で当たり役オネーギンを披露しているラデューク、そして2017年のザルツブルク音楽祭『ムツェンスク郡のマクベス夫人』でセンセーショナルな成功を収め翌年も『スぺードの女王』に出演、欧州の歌劇場の舞台に躍り出たムラーヴェワら、ロシア・オペラのスペシャリストが集まります。

<「エウゲニ・オネーギン」あらすじ>

【第1幕】ラーリン邸。農村の女地主ラーリナの二人の娘、読書好きで物静かな姉のタチヤーナと陽気で外交的な妹オリガのもとを、オリガの婚約者のレンスキーが、友人オネーギンを連れて訪れる。タチヤーナは一目でオネーギンへの恋に落ちる。その夜、眠れないタチヤーナは意を決してオネーギンへの恋文をしたため、オネーギンへ届けさせる。ラーリン家の庭にオネーギンが現れ、タチヤーナに手紙を返す。ニヒリストのオネーギンは、自分は結婚生活に向かない人間だと冷たく告げ、タチヤーナに自制することを学ぼう諭す。

【第2幕】ラーリン家の舞踏会。オネーギンがタチヤーナと踊っていると、客たちは二人の噂話を交わす。オネーギンはつまらない舞踏会に自分を誘ったレンスキーへの腹いせにオリガとばかり踊る。これを侮辱と捉えたレンスキーはオネーギンと激しく口論し、ついに決闘を申し込む。凍てつく冬の朝、決闘場所の水車小屋でオネーギンを待つレンスキーは、過ぎた日を懐かしむ。オネーギンが到着し、介添人のもとで決闘が行われる。オネーギンが撃つとレンスキーが倒れ、オネーギンは友人の死におののく。

【第3幕】数年後、サンクトペテルブルクのグレーミン公爵邸の舞踏会。社交界から離れ放浪の旅を続けていたオネーギンが久しぶりに現れ、グレーミン公爵夫人となったタチヤーナに再会し、その変貌ぶりに驚く。グレーミン公爵がオネーギンに妻を紹介し、いかに妻を愛しているか語る。タチヤーナの優雅な姿に今度はオネーギンの心が燃え上がる。オネーギンはタチヤーナのもとを訪れ、憐れみを乞う。オネーギンの激情にタチヤーナも心動かされるものの、オネーギンの自尊心に訴え、公爵と共に生きる運命に従う、と言い残し去っていく。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】アンドリー・ユルケヴィチ

Andriy YURKEVYCH

ウクライナ生まれ。1999年にウクライナのリヴィウ音楽大学を卒業し、ポーランド国立歌劇場でヤツェク・カスプシク、イタリア・シエナの音楽院でジェルメティ、ベアザロでアルベルト・ゼッダのもとで学ぶ。96年からリヴィウ国立オペラ常任指揮者となり、『アイダ』『ナブッコ』『イル・トロヴァトーレ』『椿姫』『オテロ』『蝶々夫人』『トスカ』『カルメン』やロシア・オペラなどを指揮する。2014年～17年にはポーランド国立歌劇場音楽監督を務め、現在、モルドバ国立オペラ・バレエ首席指揮者。ローマ歌劇場には05年『白鳥の湖』『眠れる森の美女』で登場後、10/11シーズン開幕公演『ファルスタッフ』も指揮した。サンチャゴ・ムニシパル劇場、サンフランシスコ・オペラ『連隊の娘』、バイエルン州立歌劇場、シュトゥットガルト州立劇場『セビリアの理髪師』、モンテカルロ歌劇場『ランスへの旅』、ベルギー王立モネ劇場『運命の力』『ボリス・ゴドゥノフ』、ザンクトガレン歌劇場『スペードの女王』、ギリシャ国立歌劇場『清教徒』、サンカルロ歌劇場『マリア・ストゥアルダ』、デュッセルドルフ・ライン・ドイツ・オペラ『エウゲニ・オネーギン』、マンハイム国民劇場『ロベルト・デヴリュー』、バルセロナ・リセウ大劇場『アンナ・ボレーナ』、ポーランド国立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』など多くのオペラを指揮している。新国立劇場初登場。



【演出】ドミトリー・ベルトマン

Dmitry BERTMAN

モスクワ生まれ。ロシア舞台芸術アカデミーでオペラ演出を学ぶ。1990年に23歳でモスクワでヘリコン・オペラを創立、すぐにロシアで最も有名なオペラカンパニーのひとつの地位を確立する。国内外でロシア作品や世界初演作品を含め多くのプロダクションを演出しており、カナディアン・オペラ・カンパニー、スウェーデン王立ドラマ劇場、マリインスキー劇場、ラトヴィア国立歌劇場、ローマ歌劇場、エストニア劇場、フィンランド国立歌劇場、モスクワ・N.I.サツ記念子供音楽劇場、マシー歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、マンハイム国民劇場、フォルクスオーパー、ニュージーランド歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場などで演出。2005年、ロシア連邦人民芸術家となる。98年、99年、01年、ロシア劇場連合“ゴールドエンマスク賞”受賞。03年、04年、05年、劇場労働者組合“シーズン優秀作品賞”、05年スタニスラフスキー賞、07年モスクワ市賞、08年エストニア賞およびエストニア劇場組合賞、ロシア・フレンドシップ勲章、フランス教育功労章オフィシエなど受賞多数。ロシア舞台芸術アカデミー教授、ベルンオペラスタジオ教授。20年よりエストニア・ブリギッタ音楽祭芸術監督に就任予定。新国立劇場初登場。



【タチヤーナ】エフゲニア・ムラーヴェワ

Evgenia MURAVEVA

サンクトペテルブルク生まれ。サンクトペテルブルク室内歌劇場のソリストとしてトスカ、ミミ、ドンナ・アンナ、ネッダ、『スペードの女王』リーザ、『ボリス・ゴドゥノフ』クセニヤなどに出演。近年はマリインスキー劇場に定期的に客演し、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『サロメ』タイトルロール、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』カテリーナ・イズマイロワ、『スペードの女王』リーザ、『神々の黄昏』グートルーネ、チャイコフスキー『オプリーチニク』ナタリア、プロコフィエフ『セミヨン・コトコ』リュブカ、リムスキー・コルサコフ『5月の夜』パンノーチカなどに出演。2017年、ザルツブルク音楽祭に『ムツェンスク郡のマクベス夫人』カテリーナ・イズマイロワでセンセーショナルなデビューを飾り、18年には『スペードの女王』で出演した。ほかにベルリン・コーミッシェ・オーパー『エウゲニ・オネーギン』タチヤーナ、カザンのタートル国立オペラで『イル・トロヴァトーレ』レオノーラに出演。18/19シーズンは、リヨン歌劇場『メフィストフェレ』マルゲリータ／エレナ、トゥールーズ・キャピタル・オペラ『死の都』マリエッタ／マリー、ミラノ・スカラ座『ホヴァンシチナ』エンマ、ローマ歌劇場『炎の天使』レナータ、ナポリ・サンカルロ歌劇場『蝶々夫人』タイトルロール、パレルモ・マッシモ劇場『道化師』ネッダなどに出演。今後の予定に、ウィーン国立歌劇場『蝶々夫人』、ハンブルク州立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』アメリアなどがある。新国立劇場初登場。



【オネーギン】ワシリー・ラデューク

Vasily LADYUK

ロシア出身。モスクワのノーヴァヤ・オペラのソリストとしてキャリアをスタート、2007年からポリショイ劇場ゲストソリスト。フランス・コ・ビニヤス国際音楽コンクール、ドミンゴ主宰オペラリア、第4回静岡国際オペラコンクールと3つの国際コンクールを制覇。これまでにマリインスキー劇場、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、モネ劇場、ヒューストン・グラント・オペラ、フェニーチェ歌劇場などに出演。ミラノ・スカラ座と英国ロイヤルオペラの『エウゲニ・オネーギン』オネーギンは称賛を集め、チャールズ皇太子主催バッキンガム宮殿チャイコフスキー・ガラへも招待された。近年はポリショイ劇場に『エウゲニ・オネーギン』、『スペードの女王』エレットキー公爵、『椿姫』ジェルモン、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『イオランタ』ロベルトなどで数多く出演しているほか、メトロポリタン歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、オスロで『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ラス・パルマスで『真珠採り』ズルガ、トリノ『ファウスト』、ノーヴァヤ・オペラ『愛の妙薬』『トロヴァトーレ』、リセウ大劇場『アッティラ』などに出演。オネーギン役はオスロ、ルクセンブルク、トリノおよびサンタ・チェチーリアのガラでも出演している。新国立劇場初登場。



【レンスキー】パーヴェル・コルガーティン

Pavel KOLGATIN

ロシア出身。国立合唱アカデミー在学中にポリショイ劇場ヤングアーティストプログラムに招かれ、『魔笛』タミーノでデビュー。2012年にローマ歌劇場に『魔笛』タミーノでデビュー後、『愛の妙薬』『チェネレントラ』で再び招かれる。モスクワ12月の夜の音楽祭、フランス・コ

ルマー音楽祭、ラインガウ音楽祭、オルデンプルガー・プロムナードなどの音楽祭に出演。10 年キッシンガー国際音楽祭ベスト・ヤング・アーティスト賞受賞。ウィーン国立歌劇場には『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオでデビュー後定期的に出演し、『ボリス・ゴドゥノフ』ユロージヴォ、『フィガロの結婚』バジリオ、『ドン・パスクワレ』エルネスト、『ナクソス島のアリアドネ』ブリゲッタ、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵など多くの役に出演。16 年にザルツブルク音楽祭に『ダナエの愛』でデビュー。ザクセン州立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ポーランド国立歌劇場には『イタリアのトルコ人』ドン・ナルチーゾ、マンハイム国立劇場およびバーゼル歌劇場には『チェネレントラ』ドン・ラミーロで出演した。18/19 シーズンはサンカルロ歌劇場で『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、ウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演したほか、スカラ座へ『ナクソス島のアリアドネ』ブリゲッタでデビューした。今年のペーザロ・ロッシーニ音楽祭には『ひどい誤解』エルマンノで登場。今後の予定に、ウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』などがある。新国立劇場初登場。



【オリガ】鳥木弥生

TORIKI Yayoi

ロシア他東欧各地で演奏活動を開始。第 1 回 E.オブラストワ国際コンクールに入賞し、マリンスキー歌劇場において、G.ノセダ指揮同劇場管弦楽団と共演。日本では岩城宏之指揮、ファリャ『恋は魔術師』でデビュー。フィレンツェ市立歌劇場オペラスタジオで研鑽を積み、02 年同歌劇場公演『ジャンニ・スキッキ』ツィータでオペラデビュー。07 年文化庁研修生として渡仏し、J.レイスに師事。プッチーニ『外套』フルーゴラ(ルッカ他)、クレルモンビゼー『ジャミレ』主演(クレルモン=フェラン)、プッチーニ『蝶々夫人』スズキ(バルセロナ他)など各地での出演で好評を得ている。ビゼー『カルメン』、プーランク『カルメル会修道女の対話』マリー、ベッリーニ『カプレーティ家とモンテッキ家』ロメオなどに加え、ベートーヴェン『第九』、ストラヴィンスキー『プルチネッタ』、フォーレ『ペレアスとメリザンド』、ヴェルディ『レクイエム』など幅広いレパートリーで活躍。15 年岩城宏之音楽賞受賞。新国立劇場へは 18/19 シーズン『ファルスタッフ』ページ夫人メグに続いての出演となる。藤原歌劇団団員。



【グレーミン公爵】アレクセイ・ティホミーロフ

Alexey TIKHOMIROV

ロシア連邦タタール共和国カザン出身。2005 年よりヘリコン・オペラソリストとなり、ロシアをはじめ各地の歌劇場へ出演。これまでにマルセイユ歌劇場、ポーランド国立歌劇場、ベルギー王立ワロニー歌劇場、ポリショイ劇場、サンティアゴ・テアトロ・ムニシパルで『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、マドリード王立歌劇場とモネ劇場で『金鶏』ドドン王、テアトロ・ムニシパル『リゴレット』スparaフチーレ、ハンブルク州立歌劇場『タウリスのイフィゲニア』トアス王などに出演。17/18 シーズンはオランジュ音楽祭『セビリアの理髪師』バジリオ、フィレンツェ歌劇場のコンサート、テアトロ・ムニシパル『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ボリス・チモフェーヴィチ・イズマイロフ、サンパウロ歌劇場『トゥーランドット』ティムール、モンテカルロ歌劇場『群盗』マッシミリアーノ伯爵、ライブツィヒ・ゲヴァントハウスのクリスマスコンサートで『ボリス・ゴドゥノフ』、ヘリコン・オペラでは『ムツェンスク郡のマクベス夫人』、『金鶏』ドドン王、『エウゲニ・オネーギン』グレーミンに出演した。18/19 シーズンはジュネーヴ大劇場で『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロールおよびヴァルラーム、『ラインの黄金』ファールツルト、『ワルキューレ』フンディング、マルセイユ歌劇場『リゴレット』スparaフチーレなどに出演。今後の予定に、オランジュ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、バーリ・ペトルツィ劇場『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵、ベルリン州立歌劇場『ホヴァンシチナ』ドシフェイなどがある。新国立劇場初登場。



【ラーリナ】森山京子

MORIYAMA Kyoko

国立音楽大学卒業。1993 年文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学。藤原歌劇団に 88 年『ラ・トラヴィアータ』のフローラでデビュー。以降、『カプレーティ家とモンテッキ家』のロメオで絶賛を博し、『アルジェのイタリア女』『チェネレントラ』『イル・トロヴァトーレ』『蝶々夫人』など多くの公演で活躍。94/95、95/96 シーズンはライブツィヒ歌劇場と契約。新国立劇場では『ナブッコ』フェネーナ、『マノン・レスコー』音楽家、『ヘンゼルとグレーテル』ゲルトルート、『蝶々夫人』スズキ、『フィガロの結婚』マルチェッリーナ、『軍人たち』ド・ラ・ロッシュ伯爵夫人、『リゴレット』マッダレーナ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ソニエートカ、『オテロ』エミーリア、『夜叉ヶ池』万年姥、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ルチア、『アンドレア・シェニエ』コワニー伯爵夫人、『椿姫』アンニーナ、鑑賞教室『カルメン』タイトルロールなど多くの公演に出演。2018 年には急遽『アイーダ』アムネリスに代役で出演し成功を収めた。00 年『エウゲニ・オネーギン』でもラーリナ夫人に出演している。洗足学園音楽大学講師。藤原歌劇団団員。



【フィリップエヴァナ】竹本節子

TAKEMOTO Setsuko

大阪音楽大学卒業。これまでに『カルメン』タイトルロール、『チェネレントラ』タイトルロール、『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『ニーベルングの指環』エルダ、『サムソンとデリラ』デリラなどを演じる。マラー『大地の歌』『復活』、『ヴェルディ』『レクイエム』など宗教曲のソリストとしても活躍し、国内主要オーケストラとの共演、CD、DVDも多い。新国立劇場では『フィガロの結婚』マルチェッリーナ、『アンドレア・シェニエ』マデロン/コワニー伯爵夫人、『さまよえるオランダ人』マリー、『神々の黄昏』第一のノルン、『アラベッラ』アデライデ、『夜叉ヶ池』万年姥などに出演。大阪音楽大学客員教授。二期会会員。



令和元年度(第74回)文化庁芸術祭主催公演
 新国立劇場 2019/2020 シーズンオペラ 開幕公演
 ピョートル・チャイコフスキー
 エウゲニ・オネーギン
 Pyotr TCHAIKOVSKY / Eugene Onegin
 全3幕〈ロシア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2019年10月1日(火)18:30／3日(木)14:00／6日(日)14:00／9日(水)18:30／12日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,000円・A:21,600円・B:15,120円・C:8,640円・D:5,400円・Z:1,620円

【前売開始】2019年6月23日(日)

指揮 アンドリー・ユルケヴィチ
 Conductor Andriy YURKEVYCH
 演出 ドミトリー・ベルトマン
 Production Dmitry BERTMAN
 美術 イゴール・ネジニー
 Set Design Igor NEZHNY
 衣裳 タチヤーナ・トゥルビエワ
 Costume Design Tatiana TULUBIEVA
 照明 デニス・エニユコフ
 Lighting Design Denis ENYUKOV
 振付 エドワルド・スミルノフ
 Choreographer Edvald SMIRNOV
 演出助手 ガリーナ・ティマコワ
 Assistant Director Galina TIMAKOVA
 舞台監督 高橋尚史
 Stage Manager TAKAHASHI Naohito

タチヤーナ エフゲニア・ムラーヴェワ
 Tatyana Evgenia MURAVEVA
 オネーギン ワシリー・ラデューク
 Eugene (Yevgeny) Onegin Vasily LADYUK
 レンスキー パーヴェル・コルガーティン
 Vladimir Lensky Pavel KOLGATIN
 オリガ 鳥木弥生
 Olga TORIKI Yayoi
 グレーミン公爵 アレクセイ・ティホミーロフ
 Prince Gremin Alexey TIKHOMIROV
 ラーリナ 森山京子
 Madama Larina MORIYAMA Kyoko
 フィリッピエヴナ 竹本節子
 Filipyevna TAKEMOTO Setsuko
 ザレツキー 成田博之
 Zaretsky NARITA Hiroyuki
 トリケ 升島唯博
 Monsieur Triquet MASUJIMA Tadahiro
 隊長 細岡雅哉
 A Captain HOSOOKA Masaya

合唱指揮 三澤洋史
 Chorus Master MISAWA Hirofumi
 合唱 新国立劇場合唱団
 Chorus New National Theatre Chorus
 管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団
 Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督 大野和士
 Artistic Director ONO Kazushi

主 催 文化庁芸術祭執行委員会／新国立劇場

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/eugeneonegin/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,620円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

新国立劇場 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp> 東京都渋谷区本町1-1-1 京王新線新宿駅より1駅、初台駅直結。